



稚内の中学生対象に観光ガイド育成研修開催！！

稚内北星学園大学メディア学部
地域創造学科 講師 藤崎 達也

はじめに

去る12月10日、稚内中学の土曜授業と連携して稚内の観光ガイドメニュー作成のワークショップなどをおこない、未来の観光ガイドを育成する研修を行いました。90人近くの中中学生達は休憩時間も熱心に取り組む子達も多く、校長先生や担当の先生からも大変好評をいただきました。

研修会の様子

稚内中学は、ホテルや飲食店などが集中する稚内中央地区、ノシャップ岬までの観光ルート上、そして誰もが憧れる西海岸の校区の子達が集まる学校です。しかし、事前の調査で稚内市を観光地だと思っている人は一人もおらず、30万泊の一大観光地であることや日本人が一度は訪れたい観光地に必ず稚内が入っていること、外国人旅行者から注目されつつあることなどをレクチャーし、稚内は誰もが憧れる観光地であるということを理解してもらうことから研修はスタートしました。



「なぜ観光地ではないのか」と聞くと、「何もないから」という声上がり、岩手県では津波跡の「空き地」を案内するガイドをしていることや、十勝では「ただの畑」「入ってはいけないと言われている畑」を案内して人気なことなどの事例をもとに、「何でもないもの」「ダメといわれていること」こそが観光資源になりうることをレクチャーし、グループに分かれての「何でもないこと」の抽出と観光メニュー化を検討しました。



校外区ごと地図にメニューを書き込み



校外区ごと観光メニューの発表

ワークショップで集まった情報は例えば「飲み屋の跡を、お父さん達が自分たちの『飲み場』にリフォームして酒盛りをしていること」や「地元の人が買いにいかないソフトクリーム屋があること」などすぐにでも観光資源となるものばかり。また「公園にトイレがないこと」などのネガティブ情報も観光客にとっては有益であることを知り、観光的な視点と観光事業の視点を学びました。先生達からも、地元を見つめ直す良いきっかけになった、グループ学習の新しい形を学べたなど、観光を通して地域振興に寄与できたことを実感しました。